

親の会だより

発行日 H20.12.8

NO. 70

発行 岩手県ことばを育む親の会
会長 佐々木信孝
事務局 盛岡市立桜城小学校
ことばの教室

専ら育む親

★ 基調提案 ★

副会長 岡崎清弘

「ことばの教室」「親の会」との出会い、かわりと経験談を、歴史を振り返りつつ話されました。

去る、十一月十五、十六日、桜城小学校において支部長学習会が開催されました。
「特別支援教育」も二年目に入り、「親の会」の役割も益々重要になり、活動の在り方も多様化を求められて、活動の中、二日間にわたり、全体学習、グループ学習等を行い、大変実りある学習会となりました。

一日目の夜の交流会では、活発に情報交換も行われ、久しぶりに参加した「やまびこ会」の皆さんとの旧交を懐かしみ、楽しいひと時となりました。

《 日程 及び 内容 》

【 1 日 目 】

- ★開会行事
- ★基調提案
「これまでの経験と今後に向けて思うこと」
副会長 岡崎清弘
- ★グループ学習会
- ★交流会

【 2 日 目 】

- ★講演
「これからの親の会の活動の在り方を探る」
講師：岩手県難聴言語障害教育研究会
副会長 森田 巧 先生
- ★分科会報告
- ★閉会行事

「親子合宿研修会」が開催されていますが、自分は全く何もしていませんでした。つまり、まだかかわりを持っていない状態でした。それでもこの年に、三男が一年生の言語検査で、要通級と判定され、その時の夫婦揃っての第一声は「え、何でうちの子が」でした。他の保護者の方々と反応は一緒です。でもこれは、浅いかかわりであって、深いかわりとして持ったのは、この年の「支部長学習会」でした。

今回と同じように、一泊二日で、交流会も設定されていきました。見るもの、聞くこと、熱い思い、深刻な悩み、それら全てが深く心に残った学習会や交流会をついに昨日の事の様に覚えていきます。その時から、久慈支部の支部長として「それまで一年交代だったようです」「大野小ことば」「久慈中きこえ」、教室減問題、教育委員会訪問、未設置町村訪問等々、行ってきました。また、支部長として、「県親の会」に対しても様々な質問、注文を投げかけてきました。文句をつけたことも多々ありました。

★グループ学習会★

★Aグループ

(盛岡・八幡平・金ヶ崎・釜石・山田・久慈・軽米)

助言者 (参与 坂本 信行)

司会者 (副会長 岡崎 清弘)

学校数が多く、行事等の日程調整が難しい。

市町村合併で広範囲になり集会在が困難になった。併せて、予算上の問題から旧行政間の乖離も見られる。

独自のパンフレットを作成し、幼稚園、保育園に配布し、教室への相談につながっている。

教育委員会への訪問は期を見て行っているが、やっていない支部も見られ、通級補助費の支給の無回答も確認された。教室の存続についても曖昧さの残る回答をされたりもするので不安もある。

役員問題も含め、無関心な方のほうが多い。行事等いかに魅力ある楽しいものにするかが解決の糸口になると考えられる。

他校児の通級への配慮として、巡回ではなく、分教室を作り成果が上がってきている。

隣り合った支部、あるいは教室の先生や役員さんとの交流を行い、情報交換につとめ、支部をまたがった協力体制をとっている。

支部総会に、通級他校児の校長先生等もお招きし、懇親会をする中で、共通認識を持ち協力体制をしっかりとつくり上げるよう心がけている。

県本部の情報は常にタイムリーに流して欲しい、そのことが親の会の活動状況を会員さんに知らしめる方法と考える。

助言者の声

○教室設置の形態について

・特別支援学級・きこえ

・通級指導学級・ことば、きこえ、情緒、弱視、LD等があります。(通級の担当は加配)

○今後の方向性

・一つの障がい種にこだわらな

・全ての学校に全ての子供を引き受ける教室が設置される。

・ことばの先生方は不安定なので、「親の会」のお願いが必要不可欠。

○教育委員会へのお願い

・目的を持ってやること。

・県は各支部に伝える、支部は会員一人一人に伝える。

○校長先生にも案内を出す

・(懇親会等大事な会)

・どのように運営したらよいか悩んでいることが多い

○ブロック・支部交流会

・とつてもよいことだ、近隣の交流は必要である。

○先輩として、新しい会員へ安心できるような声かけをしてあげてください。



★グループ学習会★

★ Bグループ

(矢巾・葛巻・滝沢・北上一関・遠野・宮古・二戸)

助言者 (元事務局次長 杉本 光生)

司会者 (副会長 藤原 正志)

一年で終わる親が多く、会員相互間の意思疎通がうまくいかず、役員のなりてをみつめるのに苦労している。

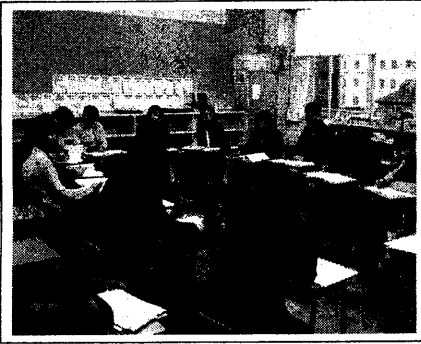
市町村合併や学校統廃合問題等があり、教室存続に危惧している。

合宿研や大会を来年度に控え、手探り状態で四苦八苦している面もあるが、それに向けて取り組むことで結束力がつくと言っている意見もある。期待している面もある。

総会の後に親睦会をしたり、入級式に工夫をしたりして、交流を図るようにしている。

教育委員会や行政に訪問する中で、巡回指導や幼児教室が出来てきました。待遇改善も含め継続した取り組みが必要になりま

す。
LD、ADHD等の、直接「きこえ・ことば」にかかわりの無い子供たちの教室については、行政、学校により区々なため、どのような体制になっていくのか不安に思っている。また、それらのことについての「親の会」としての学習の必要性も認識している。



助言者の声

○教育対策として、子供、児童に必要な指導は何かを見極めたうえで、その家庭の動向を考える。また、「親の会」がどのように動くというようなことは、今の時点では難しい。

○何事も義務的にやるだけでなく、活動の必要性をちゃんと話して、分かってもらえる事も大切である。意識を持った上で活動する。今いる人たちは、それを分かってる事である。

○「きこえ・ことば」の教室と別にLD教室がある。通常学級の中にLD等が多くいる。そのため通級教室がほしいが、ことば教室は発音だけでなく、コミュニケーションに課題のある子も通級している。先生方もそれに対応できるように研修している。

○親の会も「ことばを育む親の会」とした経緯からも、「きこえ」にLDが入ると云々という考え方はどうかと思えるし、必ず通級するとう決められている訳ではなく、通級することが有効かどうかで、受け入れられる。地域によっては、LD、ADHDの通級教室が必要であれば作るということである。

★ Cグループ

(紫波・雫石・花巻・奥州・気仙・洋野・一戸)

助言者 (参与 高屋敷 光男)

司会者 (副会長 松戸 美千代)

交流会を工夫することで参加人数が増えている。
教育委員会への訪問は時期をみて行い有意義なものとなっている。

○「ことば」の相談会のチラシを幼稚園、保育園に配布したこと、相談が増えたので、参考にできるのではないかと、参考

言語検査や教育相談は必要不可欠なものだと認識しているが、それに対して身構えたり、特別に扱われていると感じている人もいるようだ。

○幼児教室が教室減に伴い設置された。うれしい反面、複雑な心境です。また、幼児の言語検査のあり方も工夫が必要が見受けられるし、先生の待遇もしっかりしていない。

○「巡回指導」、言語検査等をお願いで教育委員会に訪問しているが、「巡回指導」に対して危

惧している様子も見られる。
特別支援教育制度の中で先生を採用するための研修等の働きかけは必要になってくるのか。

○役員になり手不足については、工夫が必要で、お互い負担にならない程度の選り方や、OBの方々の協力を仰ぐのも一つの工夫かと思えます。

助言者の声

○幼児教室の良さは、早期発見、早期指導にあります。

○小学校「ことば」と幼児「ことば」の先生方の身分は違います。

○財政的な理由で、教室設置が見送られるケースが多い。

○言語検査は、岩手県は実施されている方、これは、今後も続けていきたいし、教室確保にも繋がります。

○「巡回指導」は、予算面よりも制度面に課題がある。子供、親の負担は少ない。通級は親子のコミュニケーションが深まる。行政は効率を考えているので、後から提案があるかもしれない。先生が移動することの課題がある。「巡回指導」について強く言えるのは「親の会」である。

○新規採用者のための研修面での対応は今は無い。

○現場の先生方を対象にした、教育センターの三ヶ月研修があります。

○「親の会」が先生の待遇改善まで、手をかけているようなところがある。



ご協力ありがとうございました。

平成20年7月30・31日・8月1日に、第37回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会岩手大会が、アイーナ (いわて県民情報交流センター) を会場に開催され、全国から四百余名 (県外204名、県内200名) の参加があり、三日間の充実した大会が成功裡に終えることができました。岩手大会を支援する会のもと、親の会も岩手県難聴言語障害教育研究会を盛り上げようと、協賛・運営支援等協力していただきました。心から感謝申し上げます。どうぞ、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願いいたします。

支部長学習会



講師 岩手県難聴言語障害教育研究会
副会長 森田 巧 先生

1 親の会との出会い

昭和 57 年度に桜城小学校幼児教室開設され、幼児教室担当として、勤務することになった。

その年の、教室担当者は、

清水端 誠 先生 (分担：県難言研)

学んだこと：研修、資料づくり

若松 三郎 先生 (分担：県親の会)

学んだこと：教育相談

坂本 信行 先生 (分担：支部親の会)

学んだこと：研究

伊藤 八重子 先生 (分担：県難言研)

森田 巧 (分担：支部親の会) であった。

勤務校の桜城小学校では、指導の他に事務局の仕事を学んだ。所属は、盛岡市教育研究所 障害児教育相談専門員であった。

2 教室親の会の誕生

(1) 昭和 62 年度 杜陵小学校ことばの教室開設

教室親の会の設立へ

教室としての親の会が未成立だったため戸惑いがあった。

(2) 平成 3 年度 青山小学校ことばの教室開設

・ P T A 行事が盛んなところは親の会行事も活発であった。教室親の会の会長の引継ぎも自主的にされた (最初は先生がお膳立てしていた)

・ 長く役員されている人は、何かはまって (魅力) いるものがある。

3 支部親の会の変化

教室の増加・合併による会員の増加

教室親の会行事と支部親の会行事が昭和 63 年から関係保持が難しくなり、会費の徴収も合併により負担も大きかったのではないかと。

4 県親の会を担当して

(1) 企画・運営

・ 資料をもとに企画・立案を作成する。(綴りの整理、保管)

・ 組織づくりは年度初めに名簿作りをする。

(2) 親の会活動

・ よく「車の両輪」と言われるが、乗っているのは誰? 誰のために活動するの? (・・・子どものため)。自転車であらうとすれば、軌道にのるまでは (・・・前輪 → 教員)、活動が順調にいった段階で親と一緒に活動する。

(3) 日常的活動

・ 子育てをしながら事務局の仕事(週に何度か夜に桜城小へ)

(4) その他

・ 楽しみを見いだしながら活動する。

・ 事務局の仕事は、相手はわからないことを前提に話をする。

(5) 関係機関への働きかけ

・ 教室の設置・・・まず学習する (先行事例の把握)

・ 教室の存続・・・来年度存続保証はどこにもない。

親の希望の要請が大きいと劣りつきつづしを免れる。

何も動かない親は、必要ないと行政に思われる。

・ 指導の形態・・・巡回指導 (メリット・デメリット)

・ 担当者の研修の充実 (県親の会でお願いする)・・・“内地留学”

裏付けがあつて積み重ねた成果がある。継続が大事!

(6) 教室担任との懇談会 (略称：担任懇)

・ 県大会や合宿研を開催予定の地区で実施・・・教員→研修会・懇親会、親の会→懇親会

・ 語り合う・・・親の会について日頃抱えている課題。

担当者との連携。

5 親の会活動で心がけたこと

(1) ことばの教室・きこえの教室・幼児教室の歴史を語る

・・・温故知新

「本校のことばの教室の歴史についてお話しします」

(2) 親御さんとの雑談から親の会は始まる

「今年の子ゆうりのできはどうですか?」

(3) 核となる親さんの発見をする

「他校から通級されるかたは大変ですね」(役員を依頼)

(4) 教室親の会役員会で、学習会的な内容を入れた

「もしかして、初めから私をこうするつもりでいろいろと教えてください!」

6 やまびこ会 (岩手県難聴者の会) の運営

(1) 事務局 青山小学校ことばの教室においた

(平成 4 ~ 15 年度)

①事務局の移動は当初は暫定的なものだった

・・・やまびこ会事務局長が青山小学区の施設勤務

②行事の実施 (夏・冬)・・・役員会の実施 (青山小ほか)

・ きこえの教室の先生方の協力が不可欠・・・とくに中学校

・ 自宅に F A X を設置・・・難聴者との連絡

③会報の発行

(2) 目指したもの・・・中高校生の悩みに会員自らがこた

えること

・ 会を継続させることが大事

・ 将来はやまびこ会の青年たちのみで会を運営することを目指したが教員がサポートしていくことが必要

(3) 県親の会・県難言研とのかわり

・ 県大会、合宿研修会への参加

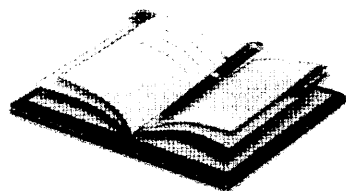
・ 県難言研大会の懇親会への参加

*平成 20 年度全難言協岩手大会 (7 月 31 日・8 月 1 日)

・・・難聴分科会参加・交流会参加(教室親の会会長を依頼)

☆ま と め ☆

「親の会」の歴史を知り、先達の労苦を語り継ぎ、恐れず、驕らず、指導が必要な子への教育を充実させたいと言う初心忘れることなく真摯な気持ちで、種々変化する教育環境に対応すべく、皆の英知を結集して活動に取り組んでいってください。



事務局からのお知らせ



去る、十一月六日、岩手県保健福祉部との意見交換会がおこなわれました。表題にもありますように、他団体の方々も交えた中での会議でしたが、数点に亘り「県親の会」として提案させていただき、それに対して回答をいただきましたので報告させていただきます。

提案・要望意見		回 答	担当室課
事 項	内 容		
幼児のための教室設置について	「きこえ・ことば」に不安を持つ保護者のニーズとしては早期発見・早期指導を望んでおります。今年度は9市2町に設置されておりますが、最低でも県内の各市に幼児教室が設置され、相談・指導が受けられる場を与えて下さるようお願いいたします。	「幼児ことばの教室」は市町村によって設置が進められており、現在 11 市町 24 教室に設置されています。県教育委員会としては、さまざまなニーズをもつ子供たちへ早期発見、早期対応を図るために、福祉等の関係機関との連携を深めながら、地域における相談体制整備を働きかけていきます。	学校教育室
市町村・医療機関等での健診時に関わる対応について	教育相談の大半は幼児の相談です。健診時の早期発見は早期の支援にもなりますので、誰もが気軽に相談が出来、早期発見できるよう充実をお願いします。	乳幼児健診は、各市町村で実施しておりますが、ことば・きこえの早期発見・支援が出来るよう市町村保健師への必要な情報提供や研修等のじっしに勤めてまいります。	児童家庭課
幼稚園・保育園の先生、保健師の方々のための研修講座の充実について	幼稚園・保育園の先生方、保健師の方々を対象とした「幼児期の言語教育研修講座」を毎年開催、今年で25回を数えます。今後もご支援をお願いしますとともに貴職から関係施設への参加呼びかけを図るようご配慮をお願いします。	貴会の研修会は貴重な研修機会であるとともに、例年多くの参加者を集めるなどニーズが高いことから、今後も可能な支援を行っていきます。	学校教育室
特別支援教育に関わる現段階での方向性について	「岩手県特別支援教育」で示されておるように、ニーズに応じた教育(一人一人の特別な教育的支援を必要とする児童生徒の教育)のさらなる充実をお願いします。また、特別支援教育への関心を高めるためにも、全教職員に特別支援教育研修の義務付けをお願いします。	平成20年3月に答申を受けた[岩手県における今後の特別支援教育の在り方]最終報告を受けて、「いわて特別支援教育推進プラン」(仮称)の検討を始めており、この中で教員研修をはじめとした特別支援教育の充実を図っていきます。	学校教育室

県教委訪問報告

10月2日(木)に、岩手県教育委員会を訪問してきました。県親の会からは、①「きこえ・ことばの教室」の存続 ②難聴・言語教育及び特別支援教育の充実 ③巡回指導の実施 ④幼児教室の設置と充実 ⑤特別支援教育についての研修の充実について、要望してきました。

また、岩手県教育委員会から、次のような内容を聞くことができました。

- ①九戸村の教室設置の要望を受けているが、現在のところ県では動きはない。
- ②巡回指導については、来年度から県負担はなくなり各市町村に任せることになる。
- ③就学奨励費については、県としてはそれを含め特別支援教育に対する予算を立てているので、各市町村の教育委員会に確認してほしい。

次回の訪問は、平成21年1月23日の予定です。各支部でも情報がありましたら事務局にお知らせください。

第42回岩手県ことばを育む親の会大会「二戸大会」

第33回岩手県ことばを育む親の会合宿研修会「北上大会」

- 1、期 日 平成21年 6月13日(土)
- 2、会 場 二戸市文化会館

- 1、期 日 平成21年 7月25～26日(土・日)
- 2、会 場 北上市生涯学習センター

〇二戸支部・北上支部のみなさんが、来年度の県親の会の活動のために、現在、活動してくれています。

「きこえ・ことばの教室」に通う子どもたちの教育の充実・発展と親の会のこれからの盛り上がり期待されます。来年度、皆さんの協力で盛り上げていきましょう。よろしく願いいたします